

府中町ふるさと歴史散策

〔第51回〕

文化財としての地名⑬ 昭和初期の町内会名⑫ 尾首おぐび

昭和初期の頃の字名は古い歴史に基づいた所が多く、現在も生き続けている。今回は「尾首」について考えていくこととする。

(12) 字 尾首

「この地は元々、御首」と呼ばれていた。天文10年(1541年)に出張城主白井越中守房胤が大内義隆に攻められて、当時の道隆寺を本陣として戦い、敗れてから寺に火を放ち、逃れてこの地に

来て自害した。その臣下が首を納めた所としてこの地を「御首」と呼ぶようになったといわれる。越中守の首が埋められたといわれる場所を地元の人は「首塚」と呼んで長年線香や花を絶やさなかった。その後、出張城址に小祠(ほくら)を建てて、塚石を神体として祭った。明治42、43年の無格社合併と同時に多家神社境内にある貴船神社に合祀された。(菅原守編『芸州府中荘誌』から、筆者が口語訳したもの)「尾首」の地名の由来にはもう一つの説があるので紹介する。「中世山城には攻守の関係から『城の尾首』を持った地形が活用されたという。『城の尾首』とは山城のふもと部分をさしている。

また、この地は出張城の最後の砦であり、湧泉の「尾首池」が存在していることから、白井家臣団の居住地があったと思われる。」(『安芸府中町史(第一巻)』から)

「字 尾首」は現在の住居表示では宮の町四丁目と宮の町五丁目の大部分である。小字名では黄幡山、上柳などがある。黄幡山は黄幡神社の名前に、上柳は出張にあつた柳神社に由来する。「黄幡神社」は古い記録がないため詳細は不明で明神社の意義も定かでないが、一名黄幡社と称することから八将神黄幡を祭つたもので、のちに明神社と呼ぶようになったのではないかと推測される。明治44年(1911年)に多家神社に合祀された。現在は宮の町四丁目に黄幡神社跡として石碑(写真①)が建立されている。

「神神社」については同じように記録が残っていないため詳細はわからないが、黄幡神社と同じ時に多家神社に合祀されたという記録が残っている。

「尾首の池」(写真②)は宮の町四丁目にある。白井氏の家臣が居住し、生活用水として使用したものと思われる。大内勢に攻められて自害した白井房胤の首を洗って葬つた

と伝えられている。(写真②)

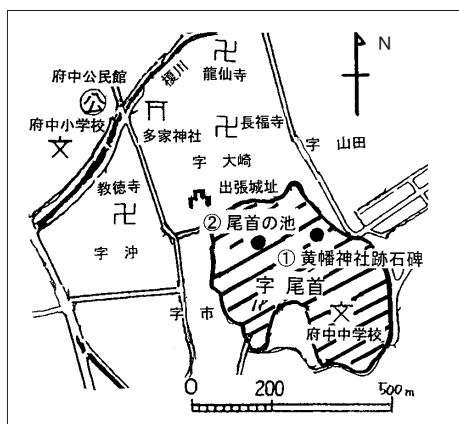
府中町文化財保護審議会委員

熊野 俊浩

問い合わせ

教育委員会生涯学習課

☎286-3272



地図「字 尾首」(■の部分)とその周辺図



写真① 黄幡神社跡石碑



写真② 尾首の池

人の動き



1月1日現在(前月比)

人口	51,958(+28)
男	25,567(-7)
女	26,391(+35)
世帯	21,480(+5)
面積	10.45km ²

町の花
つばき

町の木
くすのき

お悔やみ

(敬称略)

氏名(年齢)	住所	死亡日
小櫻シヅミ(94)	石井城一丁目	11/3
中原ナカ(84)	瀬戸ハイム一丁目	12/6
西海功(73)	柳ヶ丘	12/8
脇本つた(102)	山田一丁目	12/25
渡邊ジュカ(84)	清水ヶ丘	12/25
三宅政子(93)	浜田二丁目	12/22

※この「お悔やみ」欄には、「町広報紙掲載申出書」の提出があつた場合のみ掲載しています。

《お知らせ》

平成20年5月号をもって「お悔やみ」の掲載を終了します。平成20年3月末日まで「町広報誌掲載申出書」を受け付けます。

問い合わせ

地域振興課広報公聴担当

☎286-3127

「広報ふちゅう」等のカセットテープ版・点字版のご案内

「広報ふちゅう」「議会だより」「ふれあい府中(社協だより)」のカセットテープ版・点字版を、希望者に無料で貸し出し・提供しています。

あなたのまわりの視覚に障害のある方に是非お知らせください。

申し込み・問い合わせ 府中町社会福祉協議会 ☎285-7278 FAX287-3467

